

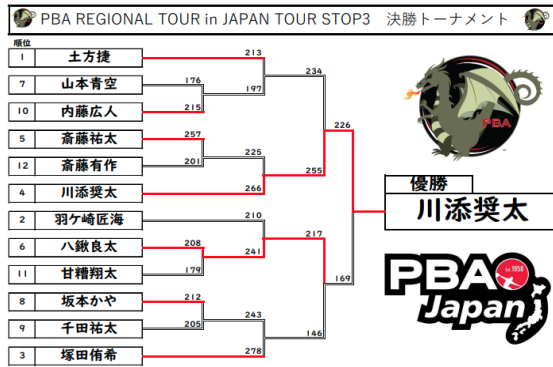


PBAリージョナル4勝目！ 川添奨太 得意のロングで完勝

「今まで不思議とスケジュールが合わず出れなかったが、僕はロングゲームを得意としているので、今回は密かにイケる気がしていた。言う通り、終わってみれば、予選から決勝まで14Gを、アベ235のハイレベルで投げ切った、川添奨太(JPBA)の完勝だった



今大会のハイライトは、準決勝でパーフェクト達成の土方捷(JPBA)、そして坂本姉弟プロの出演。特に坂本かやは、女子選手として唯一決勝トーナメントまで進出し、大活躍した。さらには、準決勝での斎藤有作・祐太(JBC)の親子対決も見応えがあった。



優勝決定戦で使用されるレーンは、メンテ後、3Gしか使用されていないフレッシュに近いレーン。そのレーンをどう攻略するか注目された。6球の練習ボールでラインを探る両雄。アジャスト能力の高さを示したのは、やはり川添。前半2フレからターキーを持って来る。一方の八鍬はストライクが出ず、5フレまでで、2マークの差。6フレ八鍬が動いた。ボールチェンジだ。ボールを変え、立つ位置、落としどころをもう一度リセット。川添もストライクは続かず、まだまだチャンスは残っている。しかし、8フレ。ストライクを欲しがる八鍬にアクシデント。アプローチで引っ掛かり失投、ボールが大きく右に逸れ2本カウント、スペアもとれずオープン、万事休すだ。226対169川添に軍配が上がった。どうしたらストライクが持ってくるのか？スコアの差以上に見どころがあった決勝だった。ここまで好調だった八鍬だけに残念。レーンアジャストの引き出しと、1Gマッチの対応は、JPBA20勝の川添に、一日の長があった。

パーフェクト達成：土方捷



惜しくも2位：八鍬良太